

【このプログラムについて】

多くの携帯電話（いわゆるガラケー）やスマートフォン（Android や iPhone）等の多くでは、登録された電話帳のデータをキャリアや機種に依存しない vCard 形式（拡張子が「.VCF」のファイル）でインポート/エクスポート（保存）をすることができます。

この vCard 形式は Outlook でも利用される電子名刺の標準フォーマットであり、氏名、住所、電話番号、メールアドレスといったデータが格納されています。

このプログラムではスマートフォン等からエクスポートした vCard 形式の電話帳データをエクセルから直接読み込み、エクセルで電話帳データの編集を行い、編集した内容から再度 vCard 形式のファイルを作成、スマートフォンに再取り込みを行うことができます。

このプログラムは、エクセルのマクロ機能で作られたエクセルファイルです。

エクセルファイルなのに有料なのか？と思う方もいらっしゃるかと思いますが、市販の電話帳データ編集ソフトのように、専用ソフトのインストールを必要とせず、エクセルでデータの編集ができるというコンセプトの元に開発を行いました。

エクセルでデータの編集を行いますので、並べ替えや検索、フィルター抽出、漢字のヨミガナを取得する PHONETIC 関数等、エクセルが持つ強力な編集機能をそのまま利用したり、エクセルファイルで作成された住所録等から直接データをコピーして電話帳を編集する等、既存のデータを活用することが可能です。

【エクセル VCF エディタからの変更点について】

近年、各携帯電話のキャリアでは機種変更時における電話帳データの移行や、万が一のためのデータの保守方法を「ローカル環境でのファイル保存によるバックアップ/復元」といった形から、「クラウドサービスを利用した電話帳のバックアップ及びデータ復元」といった形への移行が進みました。

ドコモでもこのようなサービスの移行に伴い、ドコモ電話帳のバックアップデータに使用される文字コードが変更される等、大きな仕様変更がなされております。

そのような流れの中で、旧バージョンの「エクセル VCF エディタ」では、「文字コードが UTF-8 のファイルが読み込みできない」、「一部のデータ項目がキャリアの独自仕様に変更となったため、正しく読み込み/取り込みができない」といった問題が発生するようになりましたので、複数の文字コードへの対応や独自仕様のデータへの対応等、プログラムの大幅な修正を行いました。

インターフェースや使い方については、「エクセル VCF エディタ」を踏襲しておりますが、内部のプログラムについては、大幅な修正を行いましたので、プログラム名も「エクセルでスマホ電話帳編集」と変更し、別ソフト扱いとさせて頂きました。

【このプログラムで編集可能なスマートフォン/データについて】

< 対応可能なキャリア・機種について >

多くの携帯電話やスマートフォンでは標準フォーマットである「vCard 形式」で電話帳データの取り扱いが可能となっていますが、vCard 形式で定められていない着信音や着信画像等といった項目やドコモ電話帳の登録グループごとに設定できるアイコン等、標準の仕様ではサポートしていない部分について、それぞれのキャリアや機種ごとにオリジナルの項目や仕様を設けて対応しているケースが少なくありません。

本プログラムは、ドコモスマートフォンの「ドコモ電話帳」のデータを主なターゲットとして開発しているため、「ドコモ電話帳」からエクスポートされたデータについては、ほとんどの項目を読み込み編集する事ができます。

又、一般的な vCard フォーマットの VCF ファイルについても概ねサポートしておりますので、他のキャリアのスマホや iPhone、ガラケーのデータであっても基本項目については、読込 / 編集 / 再登録が可能だと思います。

< 項目ごとの対応状況について >

- ・名前関連の項目については、vCard 形式が国際仕様である事から、姓 (FamilyName) の方が先に表記される日本人の名前に必ずしも合致した仕様ではありません。

このソフトウェアでは、日本人の氏名に合わせ、姓・名とそれぞれのヨミガナ項目の 4 つの項目を編集する仕様になっています。(ミドルネーム等は非対応としています。)

- ・住所、所属項目については、本来の vCard フォーマットでは都道府県、市区町村、番地、会社名、部署といったように、細かく登録できるようになっていますが、ドコモ電話帳では簡素化され、1項目で入力する仕様になっています。

本プログラムでは vCard 形式本来のフォーマットに従い、細かく項目ごとに登録できる仕様になっています。

ただし、所属の「役職」については、複数の所属が登録された場合、それぞれに「役職」の登録ができるはずですが、ドコモ電話帳からの出力データ仕様に問題があり、複数の所属データに適切な「役職」登録する事ができませんので、1番目に登録された所属のみ「役職」を設定するような仕様になっております。

(「役職」列に入力されたデータは1番目の所属に付加され、登録されます。)

- ・電話番号、メール、住所等、複数のデータが登録可能な項目については、1件当たり、最大5個まで編集 / 登録可能としています。

(グループの登録についても1レコードに最大5グループまで設定可能です。)

- ・登録グループについては、グループ名、アイコン、アイコン色の編集が可能です。
(ドコモ独自仕様のため、他のキャリアでの対応状況は不明となっております。)
- ・写真データの登録された連絡先を読み込むと写真データは「電話帳データ」シートとは別の場所に格納されます。
格納された写真データにはインデックス番号が附番され、「電話帳データシート」の写真列には、そのインデックス番号が入力されます。
「電話帳データシート」のインデックス番号の編集によって、写真の削除、差し替え、又は他の写真と同じものを別のレコードにコピーする事ができます。(新規写真の登録はできません。)

インデックス番号のクリックすると、イメージが表示されます。(イメージを表示するには Internet Explorer 8.0 以上がインストールされている必要があります。)
- ・ドコモ電話帳からエクスポートされた VCF ファイルには個別に設定された着信メロディの項目が含まれておりますが、VCF ファイルの取り込から着信メロディの設定ができないようです。
そのため本プログラムで作成したデータをスマホに再登録した場合、個別に設定された着信メロディは一度クリアされてしまいます。

【動作環境】

以下の環境で動作確認を行っております。

- ・ Docomo Xperia XZ + ドコモ電話帳 (バージョン 19.10) からのエクスポートデータ及び本プログラムによる編集済みデータのインポート (再登録)
- ・ Microsoft Windows 7 (64bit) + Excel 2010 (32bit)
- ・ Microsoft Windows 9 . 1 (64bit) + Excel 2013 (64bit)

バージョン 3.1 より 64bit 版のエクセルにも対応いたしました。

【ファイル・セットアップ】

配布ファイルの「VCFMS.zip」を解凍すると下記のファイルが展開されます。

- ・「エクセルでスマホ電話帳編集.xlsm」・・・プログラム本体のファイルです。
- ・「ReadMe.pdf」・・・今読んでいる説明書です。

基本的にはただのエクセルファイルなので「スマホ電話帳をエクセルで編集.xlsm」を開いて利用します。(別名をつけて保存しても、編集機能は利用できます。)

【プログラムを利用する前に】

このプログラムはエクセルのマクロ機能によって作られていますので、利用するには、エクセルのマクロ機能を有効にする必要があります。

マクロ機能を有効にするには、エクセルのバージョンや使用環境によって異なりますが、ファイルを開いた際に「セキュリティの警告 マクロが無効にされました。」と表示され、マクロ機能が利用できない場合は、「オプション」 「このコンテンツを有効にする」をクリックして下さい。

上記の方法でマクロ機能が使えない場合は、メニューの「ファイル」から「オプション」 「セキュリティセンター」 「セキュリティセンターの設定」 「マクロの設定」からマクロ機能を有効にする必要があります。

(設定を変更した場合、一旦エクセルを閉じて再度起動する必要があります。)

【プログラムの利用方法】

本プログラム（エクセルファイル）を開くと、エクセルの画面上部のリボンメニューに下のような「スマホ電話帳」という名称のオリジナルのリボンメニューが作成されるので、このメニューからアイコンをクリックして各種機能を実行します。



VCF データ読込：VCF ファイルのデータを「電話帳データ」シートに読み込みます。

VCF データ書出：「電話帳データ」シートの内容から VCF ファイルを作成します。

登録グループ編集：登録グループの登録、削除、名称・アイコン等の編集を行います。

新規電話帳作成：新しい「電話帳データ」シートを作成します。

既に「電話帳データ」シートが存在する場合は、シート名の後ろに番号を付け、バックアップとし、新規の「電話帳データ」シートを作成します。

電話帳データクリア：電話帳データ、登録グループ、写真データ等をクリアします。

文字コードに UTF-8 を使用:チェックを入れると、VCF ファイルの文字コードを「UTF-8」
としてファイルの入出力を行います。未チェックの場合は「Shift-JIS」になります。

Quoted-printable を使用：作成する VCF ファイルのデータを Quoted-printable に
します。(読み込みは自動判別するので、VCF ファイル作成の時のみの指定です。)

ドコモ電話帳用の VCF ファイルを作成する場合は未チェックで作成して下さい。

【電話帳データ編集の流れ】

<手順1 エクセルで電話帳データを読み込む>

1. スマホの電話帳データを VCF ファイルに保存します。

お使いのスマートフォンのドコモ電話帳を起動します。

設定メニューから「SD カード / SIM カード / 共有」 「SD カードへバックアップ / 復元」 「バックアップ」を選択します。

「電話帳」にチェックを入れ「バックアップ開始」を押します。

SD カード内の「SD_PIM」フォルダ内に「PIM000*.VCF」(000*は通し番号)という名前の VCF ファイル(このファイルの文字コードは Shift-JIS)が作成されます。

又、「com.nttdocomo.android.sdcardbackup」-「phonebook-utf-8」フォルダ内にも同名の VCF ファイル(こちらのファイルの文字コードは UTF-8)が作成されます。

(2つのファイルは文字コードが異なるだけで、同じデータが格納されているようです。どちらの文字コードでも読み込み可能なのでどちらを使っても OK です。)

ドコモ電話帳のバージョンやお使いのスマートフォンの使用環境等によりバックアップの方法や SD カード内のフォルダ構成については、異なる場合があります。

以前のバージョンのドコモ電話帳のように個別データのエクспортはできないようです。全件バックアップから VCF ファイルを作成し、全件読み込んで下さい。

ドコモ電話帳の設定メニューから「全データ送信(共有)」、又は個人データを表示している状態でメニューから「共有」を実行した場合でも、VCF ファイルが作成されますが、一部のデータが出力されないケースが見られますので、「共有」ではなく、「バックアップ」から VCF ファイルを作成する事をお勧めします。

(共有の場合「Shift-JIS&Quoted-printable」で VCF ファイルが作成されます。)

2. VCF ファイルを PC にコピーします。

手順1で作成された SD カード内の VCF ファイルをメールによる送信や SD カードや USB ケーブルを介しての転送等で PC 内の適当な場所に保存します。

3. PC で本プログラム(エクセルファイル)を開き、VCF ファイルを読み込みます。

読み込む VCF ファイルに合わせて文字コードのチェックボックスを設定します。

メニューから「VCF データ読み込み」をクリックします。

「VCF ファイル選択」が開くので、読み込む VCF ファイルを指定します。

電話帳データシートに電話帳のデータが読み込まれます。

<手順2 エクセルで電話帳データを編集する>

普通のエクセルファイルを編集する要領で電話帳を編集します。

<手順3 電話帳データからVCFファイルを作成する>

1.VCFファイルを作成します。

作成するVCFファイルの文字コードをチェックボックスで指定します。

(ドコモのスマホへ出力する場合、どの文字コード形式でもOKです。)

メニューの「VCFデータ書出」をクリックします。

データの作成が終わると「名前をつけて保存」ダイアログが開くので、適当な名前をつけてVCFファイルを保存します。

2.VCFファイルをスマホにコピーする

手順1で作成したVCFファイルをSDカード等、スマホの適当な場所に移動します。

<手順4 スマホの電話帳データの削除(全件再登録の場合)>

1.スマホのドコモ電話帳のデータを削除します。

ドコモ電話帳を起動します。

メニューボタンを押し「削除」を選択して、全データを削除します。

2.スマホのドコモ電話帳のグループデータを削除します。

グループメニューから現在登録してあるグループを全て削除します。

(googleのグループやお気に入り等は削除できません。)

登録グループの情報は連絡先データとは別に保存されているので、既存グループのアイコン・色を変更する場合には、VCFファイルの取り込みを実行する前にドコモ電話帳からグループデータを削除しておく必要があります。

<手順5 電話帳データをスマホに登録する>

1.VCFファイルをスマホに取り込む

手順3で作成したVCFファイルをスマホのファイルマネージャー等で開きます。

(メール添付でスマホに送信した場合、メールから直接添付ファイルを開けばOK。)

登録するアカウントを選びます。(通常「docomo」が良いと思います。「Google」を選択すると登録グループがgoogleのグループで作成・登録されてしまいます。)

ドコモ電話帳のメニューの「SDカードへバックアップ/復元」「復元」からも

登録できますが、VCFファイルを特定のフォルダに置く必要があるため、上記手順の方が簡単だと思います。

個別に着信メロディが設定されているデータをエクスポートし、再登録すると個別着信メロディの設定はクリアされますのでご注意ください。

< データ編集の際の注意点について >

- ・並べ替えやコピー&ペースト、ソート、関数を利用して編集する等、エクセルの機能を利用して自由に住所データを編集する事ができます。
シートの追加やコピーについても制限はありません。ただし、シート名が「電話帳データ」であるシートがデータの入出力シートとなります。（「電話帳データ(2)」のように後ろに番号が入ったシートは入出力シートではなくなります。）
- ・見出し行の範囲（1行目～2行目）をダブルクリックする事で、オートフィルターのON/OFFの切り替えができます。
（抽出は表示のみです。オートフィルターで抽出された状態であっても、VCFファイルの作成を実行すると、非表示になっている行を含めVCFファイルが作成されます。）
- ・1行目、2行目の見出し行については、項目名を変更せずにそのままお使い下さい。
VCFファイルが正しく作成されなくなる可能性があります。
- ・データは行を空けずに3行目から連続で入力して下さい。
- ・Noの列は、編集時のソート用に用意された列です。
（作成データには出力されないのので、欠番や重複があっても問題はありません。）
新規行のNoの列をダブルクリックする事で新規Noの附番、既にデータが入力されている行のNoの列をダブルクリックする事で、全てのNoの再附番を行います。
- ・空白行にデータを入力すると罫線が引かれます。最終行のデータをクリアすると罫線も消去されます。
クリアされた行が最終行でない場合は、行削除と番号再附番の確認を行います。
- ・編集の際に不要な列、例えば、誕生日の列そのものを削除したり、住所項目の内、住所(4)～住所(5)の列全部を削除してもVCFファイルの作成をすることができます。
（複数登録できる項目については番号の大きいものから削除して下さい。又、住所(4)の内、「建物」「私書箱」項目のみを削除するような事はできません。）
なお、列の削除をした場合、そのシートには、他のファイルを追加モードで読み込む事ができなくなります。
- ・新しい列の挿入はしないで下さい。VCFファイルが正しく作成されません。
- ・グループ列に未登録グループを入力する事で新規グループの登録をすることができます。
- ・編集中の電話帳データを読み込んだまま、本プログラムごと別のファイル名をつけて一般のエクセルファイルとして保存しておくといった使い方も可能です。

【著作権】

本プログラムの著作権は、製作者の Number14 が保持しています。

【使用条件】

プログラムのプロテクト解除及びプログラムの改変をしてはなりません。

【免責事項】

製作者は、本プログラムによって生じるいかなる不具合やトラブル、損害の責任を負いかねますので、自己責任でのご利用をお願いします。

ご使用の際はこの事を承諾した上でご使用下さい。

誤って購入された場合や使用環境等の問題でご使用になれない場合等の返金には一切対応しませんので、試用にて動作確認をした上でライセンスキーをご購入下さい。

【試用について】

試用の場合、VCF ファイルのエクセルへの読み込みについては制限がありませんが、エクセルから作成できる VCF ファイルのデータは20件までの制限があります。

【ライセンスキーの入手について】

ベクターのシェアレジをご利用下さい。

(現金書留、銀行振り込み等には対応しておりません。)

レジ作品番号：SR422000

価格：1188円

【サポートなど】

ご質問、不明な点等はメールをいただければお応えするようにしています。

バグや要望などありましたらメール (number14@yahoo.co.jp) にてご連絡下さい。

【転載・雑誌収録について】

メールにて事前にご連絡下さい。